

CIGREとIECの国際会議が函館で開催、 英語科観光通訳ボランティア、吹奏楽局演奏、 N響弦楽5重奏が講堂で演奏しました！！

国際大電力システム会議（CIGRE）と国際電気標準会議（IEC）が共催する国際会議が4月24日～26日函館市で開催しました。超高圧（EHV）と超々高圧（UHV）分野での交流・直流の送電システムを対象としたもので、日本では初の開催でした。世界32カ国から330人以上の専門家が集まり、再生可能エネルギーの導入拡大など環境変化に対応する送電システムの技術について議論を交わしたようですが、函館市の依頼で、3日間遺愛の英語科が同伴者のための観光通訳ボランティアを行い、吹奏楽局が歓迎パーティーで330人以上の外国人の前で素晴らしい演奏をし、スタンディングオベーションでの拍手をいただきました。

CIGREから感謝のお礼として、25日（木）17:00より遺愛学院講堂でNHK交響楽団5重奏（CIGREのパーティーのために招待したそうです。）を無料で開催して下さいました。遺愛生、外のお客さん含めて400人くらいの方が入場して下さいました。

ヴォーリス設計築84年の講堂に弦の音色は本当にピッタリで至福の時間を過ごすことができました。「モーツァルトのアイネクライネナハトムジーク1楽章」「ヨハン・シュトラウスⅡの春の声」「ヴァルデーの春」「クラーマーの美しきロスマリン、愛の悲しみ、愛の喜び」「遺愛木管8重奏」「モーツァルトの歌劇ドンジョヴァンニより」アンコールとして「情熱大陸」「ふるさと」が奏でられました。

CIGRE会長からご挨拶とともに突然アンコールを求められた遺愛木管グループは、メンバーで相談し合った末「宝島」を演奏しました。臨機応変な対応ができたメンバーにしなやかさと前向きな人間力を感じました。



N響弦楽5重奏



CIGRE 会長挨拶



突然のアンコールに応じて

2019年4月26日